

---

# 月が太陽に背いて

みゆ貴茂

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

月が太陽に背いて

### 【Nコード】

N0181E

### 【作者名】

みゆ貴茂

### 【あらすじ】

「数年後、月に帰らなきゃいけないの」突如、彼女がそう言った。彼女を月から守るため、オレは総理大臣になる。果たしてそこに脈略はあるのか!?

「はぁい？」

突然の彼女の言葉に、オレは聞き間違いかと思ひ訊き返した。

「だ〜か〜ら〜数年後、月に帰んなきゃなんないの、私!!」

やはり聞き間違いではなかったらしい。

「病院行け」

「なに、その言い方あ!?!?ひどくない!!」

「いや、普通そう言うだろ？」

『かぐや姫か!?!』と、迷ったけど……。

「アカツキ君、助けてくれないの？」

「いや、そう言われても……」

「ここで、『ああ、助けてやるぜ!!!』とか言う奴がいたら、そいつも病院行け！」

「アカツキ君、私がいなくなってもいいんだ……」

彼女は両手で顔を押しさえて言う。

こういう場合、大抵嘘泣きだ。

「アカツキ君、私のこと嫌いなよね……」

「いや、そうじゃないけど」

実際、彼女は可愛い。オレなんかにもつたいないくらいだ。

そして、ことういわけのわからんことを言つところも、結構好き  
だったりする。

「じゃあ、私のこと助けてくれる？」

彼女の必殺技『指の上から上目づかい』がオレのハートにクリテ  
イカルヒット！！

「うん」

頷くしかねえよ、こんちきしょう！！

「じゃあ、早速」

そう、はしゃいで彼女は奥へと引っ込んでいった。  
やはり、嘔泣きだったか。

「月軍と自衛隊の戦力差は2：1よ」

彼女はホワイトボードにグラフなんぞ書きだして、んなことのた  
まいだした。

どっから引っ張り出してきた、ホワイトボード。

てか、なぜ白衣とメガネを付ける必要が？

お前、視力5.0とか言ってたじゃん。

白衣にド キのラベルついたままだぞ！

「科学力の差もあるから、実質戦力は10倍とっていいわ」

彼女はずれてもないメガネをくいつと持ち上げてオレを見る。

「んで、オレにどうしろと？」

オレが問うと、彼女の口角が不敵にひき上がる。

「アカツキ君には、まず総理大臣になってもらいます」

「はい？」

「そして、税収改革と共に、科学アカデミーを創立して、  
ゆくゆくは軍備強化を図る　これが長期的なプランね」

「ムリ」

得意げに語る彼女の言葉に、オレは即答した。

「はあ？さつき助けてくれるって言ったでしょ！？」

彼女の目が座った。

「でも、そんなのムリだろ」

「あつそ。そんなこと言うなら私一人で月に帰るから。」

その前に、あなたを殺してね。

ほっほっほっ警察のみなさぁん、月まで追ってこられるもんなら  
追ってきなさい？」

げえ！目がマジだ。下手なこと言ったら本当に殺られる。

「わっわかったよ。がんばってみる……」

オレが渋々言つと、

「わーい。ありがとう。だからアカツキ君、だ〜い好き」  
彼女はオレに抱きついた。

がんばろう。

愛ゆえに。

そして、我が命のために。

そして、一年後　　オレはひたすら努力を続け、国会議員になった。  
った。

更に数年後、史上最年少総理大臣になる。

『彼女を月に帰さないため』　　んな理由で総理大臣になった  
バカは歴史上、オレだけだろう。  
てか、なれるこの国がバカ？

そして、彼女に言われるがまま、科学アカデミーを創立して、軍事強化を図る。

遂に日本は世界一の軍事大国になって、オレを国家主席とし、その名を『超日本大国』に改名される。

オレの命名。ネーミングセンスがないとか言うな、バカ！

「いつになったら月が攻めてくんだよ」  
いや、別に信じてたわけじゃねえけどさ……。でも、筋は通した  
いというか　　。

オレがぼやきながら、首相官邸からでようとすると、

「止まれ！！」  
いきなり大層なライフルを持った軍人たちから包囲される。

「なんだ？」

オレがわけわからず首をかしげていると、大層なリズムジンが横付けされて、中から彼女が降りてきた。

「ご苦労様」

彼女は軍人たちにねぎらいの言葉をかける。

「どういうことだよ!？」

オレが詰問すると、彼女は妖艶な笑みを浮かべて言い放つ。

「ふふ。今から国家主席は私です」

つまりクーデター？

「今日からこの国の名前を『超絶 素敵！月本朋子さま大国』略して、  
『月本』に改名します」

「っ!! てめえ! 最初からそのつもりだったんだな! ? オレを騙しやがって。」

なにが『月に帰らなきゃいけない』っだ! ?

オレがそう叫ぶと、彼女は『やだやだ』と言いたげに首を振る。

「私、アカツキ君を騙したりしてないわ。『月に帰らなきゃいけない』って言ったけど、他人に強要されているなんて一言も言っていないし。自分でそう思ったただけで。助けてほしいっていったただけもん」

「軍事力の差がどうか言ってたのは! ?」

「実際、あの頃の日本自衛隊と月本軍では、それくらい差があるわ」

へりくつだろ、それ？

「ともかく願いが叶ったわ ありがと、アカツキ君。ほーほっほっ  
！」  
彼女の大笑いが、新生『超絶 素敵！月本朋子さま大国』に響き  
渡る。

「……………」

そうか、彼女は『月に還った』のか…………。

あのお空にある、綺麗なまん丸お月様ではなく、  
地上に新たにできた『月』に…………。

この国は、『日』が『月』にひっくり返った。

「……………」

腹が立つのを乗り越して、もはや呆れてなにも言えない。  
なにも言えないが…………、

一言だけ言いたいことがある。

月が太陽に背いて

「お前、ネーミングセンスねえな」

その後、この国の行方は誰も知らない。

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。  
出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0181e/>

---

月が太陽に背いて

2009年3月24日08時47分発行